奨励賞

在宅サービス過疎地域における訪問看護ステーションの一元管理

社会医療法人孝仁会
訪問看護ステーションはまなす

北海道釧路市

職員数 10名（うち看護職員数 9 名）

課題・背景

訪問看護ステーション(根室)の運営難による、地域の受け皿の消失

医師・看護師の偏在と、高齢化に伴う事務職員の退職によって経理・労務管理を担う**訪問看護管理者と訪問看護職員の人材が不足**。まだ経験に乏しい看護師が管理職を担わなくてはならない状況が発生し、**新人管理者の業務負担が増加**。根室のステーション内での経理・労務管理が困難となり、運営の改善に取り組んだ

目的・目標

①医療・介護サービスが少ない地域での安定したステーション運営

- 地域住民の生活の安定・安心を創出
- 全国の訪問看護事業所が閉鎖を迫られている状況の打開
- 運営を健全化し、管理者や事務職の人件費を削減

②ICT（情報通信技術）を活用した 看護業務の効率化

- 作業時間・時間外業務の削減
- タイムリーな情報共有による、多職種連携の活性化
- へき地における医師と遠隔で行う死亡診断の普及

電子化された看護記録

取り組み内容

①訪問看護ステーション根室のサテライト化

保健所や行政との調整や、労務、経理を釧路で担い、根室の常駐スタッフを4名から2名に減員。退職後の事務職員の補充は行わず、**管理者を釧路と根室の兼務体制に変更**（**※釧路⇔根室の週１回の訪問が条件**）

②ICTの活用

医療ICT の展示会・勉強会に積極的に参加し、補助金で業務用のノートPC・タブレット・スマートフォンを導入

■医療連携アプリ導入

導入前

「つながり手帳」で情報を物理的に共有するため、訪問→連絡→対処に時間がかかっていた

導入後

アプリ上で、患者ごとにグループ（医師、訪問、看護師、薬剤師、ケアマネージャー）を作成し、グループ内でダイレクトな相談が可能に

■看護記録の電子化

導入前

訪問先やステーションで紙で記録し、全てステーションで管理

導入後

訪問先で電子端末で記録。過去レセプト・即住歴を含めて電子化し、各端末で確認できるため、グループ内でダイレクトな相談が可能となり、在宅のオンコールも容易に

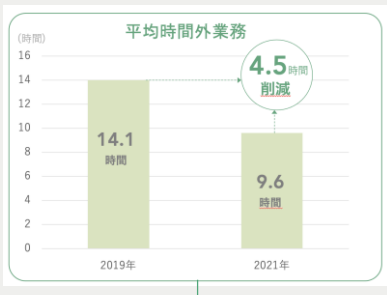
対応時間が劇的に改善したことで、タイムリーなケアが可能に

成果・効果

■サテライト化による成果

①人件費の削減

事務職員（経理担当）の釧路一元化と、管理者を2名から1名の減員により、人件費が年間**722万3,000円**削減。**地域の医療サービスの保持が可能に**



年間
43万2,000円 削減

※看護師時給を
2,000円で試算

■ICT活用による成果

①業務時間の短縮

看護記録の電子化、医療連携アプリの導入により、**ステーションとの往復時間の削減 / 記録・連絡業務の簡略化 / 利用者の状況把握が簡易化。**地域ニーズへの対応が可能に

②コロナ感染症対策が強化

看護ソフトの電子化とICT機器の導入により、**各種会議のオンライン化・密の防止・在宅勤務**が可能に
※密を防止できるようになったことで看護学生の実習の受け入れが可能に（＝**看護人材の育成強化**）

③在宅看取りの指示体制が強化

看護ソフトの電子化・ICT機器の導入の導入により、看取り経験が少ない訪問看護スタッフにオンラインでつないで指示